

令和8年度第3回 太田市1%まちづくり会議 議事概要

会議の名称	令和8年度第3回1%まちづくり会議
開催日時	令和8年6月25日(木) 18:00~19:00
開催場所	太田市役所 5階 5A 会議室
出席委員 (代表氏名)	1%まちづくり会議 佐藤 広大 委員長 他11名

1. 開会

2. 挨拶

佐藤委員長より挨拶

3. 協議事項

(1) 4次募集審査について(申請9件 No.124~132)

ヒアリング

No.132LUMINOUS DREAM FORUM 2026(こどもみらいスポーツプロジェクト実行委員会)

事務局:この団体は、令和7年度の1次募集で別の事業で採択になった経緯がある。令和7年度事業だが、前年度任期の委員に採択された。昨年度団体が実施したのは、講師が子供たちにスポーツを教える事業。前年度の補助実績なしに、今回のトークセッションのような事業を提案された場合、提案の段階でお断りしようとも考えたが、前年度同じ団体による、同じ目的で開催された事業が採択になったので、今回ヒアリングの上で、会議にかけることになった。疑問がある場合は直接団体に伺っていただければ。

団体:皆さんこんばんは。本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。私たちはこどもみらいスポーツプロジェクトという名前の通り、子供のスポーツに注力している団体。今回申請したのが、元トップアスリートを集めたトークセッションのようなイベント。2026年8月15日土曜日に、太田市学習文化センターで実施予定。昨年、太田市運動公園陸上競技場でスポーツイベントをやって、子供たちがラグビーやサッカー、バレーボール等いろんな体験をした。今回は保護者や指導者にも着目した。大人にも聞いてもらい、スポーツの環境づくりに興味を持って理解を深めてもらいたい。昨年度と目的は同じだが形を変えて開催する。なぜ1%まちづくり事業の補助金を申請したのかは、委員長が太田市の北口をまちづくりしてきた。行政と一緒にまちづくりをやっていきたいというところで、昨年から引き続き補助金を申請した。トークセッションには、北京オリンピック金メダリストの三科さん、去年まで実際にグリーンウイングスでプレイしていた道下選手に来てもらう。日本代表だった、谷田部洸太郎さんというラグビー選手も呼んで、実際に話を聞くことで子供たちの未来について考えてもらいたい。

委員: 前回の内容ならわかるが、今回は少し違う気がする。前回は何人くらい来たか。

団体: 昨年は 2000 人くらいの来場者数を目標にしたが、大量の雨で 500 人くらいしか集まらなかった。親子連れが 250 組くらい。今回はリベンジのような。まず子供たちに日本のトップでやってきた方の話を聞いて欲しい。あとはスポーツをする環境を作るのは大人なので、トップでやってきた方がどういった環境でやってきたか、より子供たちが輝ける方法を聞いてもらいたい。

委員: 事業効果に夢や目標を持つ機会の減少などの課題があるとある。どうしてこのように思ったか。

団体: SNSやインターネットの急激な普及を感じており、その中で子供たちがいろんなものに触れる機会が少なくなっている。SNSでラグビーを見るだけ、サッカーを見るだけ、テレビでバレーボールを見るだけで実際に触れる機会が少なくなっていると思ったので、こういう書き方になった。

委員: 事業計画書と別になるが、前回太田市でやったイベントはどこで開催するのか。

団体: 千代田町。

委員: まちづくりについて太田市限定にはならない範囲で連携していると理解した。

委員: 太田市のスポーツ課等横の相談はどうなのか。それから、スポーツ選手に対する謝礼は。

団体: 市のスポーツ担当課には議員を通して相談をする。またこの後太田市と太田市教育委員会の後援を取って、行政とともにやっていきたい。謝礼は今回ルミナスに協力団体としてバックアップしてもらっているので、団体から謝礼は出すが、1%まちづくり事業補助金の対象にはならないと思っている。

委員: ルミナスはどういう団体なのか。

団体: ザスパ群馬ルミナスは太田市を拠点に 2024 年に発足したサッカーチーム。女子サッカーとまちづくりをすごく大切にしている、このイベントに協力してもらっている。

委員: 太田市のスポレクと内容的にかぶっているが、そこはどうか。

団体: 太田市のスポレク祭に関してはそこまで把握できていなかったのが正直なところ。太田市のスポレク祭とフォーラムで、ともに盛り上げたい。

委員: イベントの大きさに驚いている。基本的に 1%事業は、こういう事業に補助金を出す感覚は全くない。お金をもらうだけの 1 つの手段として捉えているとすると非常に本末転倒で、壮大な計画だけが受けとめられるので、むしろ教育委員会や企業、商工会議所等とタイアップしてお金を集めて、みんなで盛り上げてもらいたい。一段階上で調整する方が、この事業にぴったり合うと個人的に感じた。

団体: そこも視野に含めつつ。昨年もやったイベントで成功には終わらなかった。お金だけというよりまちづくりをしたいイメージの方が強いので、今回申請をした。

団体退席後審議

委員：実行委員会の代表者の名前でインスタグラムをみた。千代田町や桐生市でも行っているよう。地域とは何かと思ったとき、太田市の地域。行政区やそれぞれの地区。このイベントは、地域、地域づくりと言うが、太田市と組んでやることだと思う。だから1%にはそぐわないと思った。

委員長：事務局に確認だが、採択か不採択かもきめるのか。

事務局：採択不採択も決めていただきたい。10万円未満だが今回は例外で。

委員：事務局の考えを聞きたい。

事務局：今回は例外。昨年度別の事業で採択になった経緯がある。今回はその形を変えた申請。講演会やトークセッションは1%まちづくり事業に適するのかが微妙という考え方はあった。しかし同じ団体が同じ目的で申請を上げてきたということで、事務局の段階でだめというのもどうかと思って。

事務局：昨年度採択になって今回不採択という場合に、申請者にどういった理由で不採択か説明しないといけないので、皆さんにお尋ねしたい。

委員：スポーツ課とか教育委員会と相談はしたか

事務局：事務局がやるものではなく、団体の方でやることと思う。

委員：昨年審議に上がった覚えがある。その時もいろいろな話になりながら結局採択になった。昨年は子供に対しての事業で、今回の提案と違う形だった。まちづくりの理念を持っているのはよいと思うが、まちづくりと捉えている範囲が太田市を超えていることは前回の審議の時点ではなかった。その当時から市外でも取り組む思いがあったのかもしれないが、少なくとも今の時点でそれを知った以上、規模を超えていると思った。地域、まちづくりと言っても規模、枠組みが違う。それが前回とは状況が変わったところ。この辺りが差し戻しになる場合の1つのポイントになると判断した。

事務局：皆さんの疑問点は理解しており、事務局内でも話し合いをした。ただ昨年、内容は違うが採択されている。ビジネスではなく地域のイベントをボランティアとしてやるという形。あとはスポーツを根づかせるという意気込みの話もあるので、そこも含めて事務局として判断が難しいので、10万円以下だが、皆さんの意見を聞きたい。

委員：子供が実際にやるとなると、恐らく考えが違った。ただ今回は内容でいうと、1%とは、かけ離れていると思った。

委員長より採決が諮られ、【不採択】と決定した。

No.124 熊野町夏祭り(熊野町夏祭り実行委員会)

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.125 鳥之郷行政センター等環境美化事業(鳥之郷地区区長会)

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.126 市祇園まつり(市祇園まつり実行委員会)

委員:ただの納涼祭になったと感じる。そうするとそこまでお弁当代を広げていいのか。

事務局:私たちは計画書を信じて算出するしかない。お弁当の対象人数が 250 人と出てきて、基準に則ってやるしかないので、仮に補助額を下げる場合にそれを正当化する基準がない。

委員:お弁当を出すのは本部役員になると思うので、ここで言うと 45 人ではないか。

事務局:役員の他に、作業に関わるボランティアにも支出している。今までもそのようにやっている。ボランティアを含めた作業人数が 250 人なので、その分支出している。

委員:今までみたいに巡業をやるならわかる。普通の納涼祭みたいになると、違ってくと思う。

事務局:おっしゃることもわかるが、計画書が出て、基準があつてとなると下げることができない。

委員:自分の記憶だと、お弁当は役員だけという話だった。でもお手伝いする方もいる。今の規定だと線引きが難しいと思う。私は出していいと思う。

委員:基本的に祭りは 1%でいくらかでも協力できればいいと思っている。ただ、今出た意見はこれからも続くと思う。団体が考える算出方法と、我々が事業を見た場合の算出方法に乖離が出てくる。事務局は出てきたものを信じないといけないということ。祭りやイベント関係は、補助金額の基準を設けたほうがいいと思う。環境整備だとか、みんなで協力して汗を流しましょうというのは、高い補助率で支出しても、知恵と汗ということで非常にいいと思う。私は必ず前年度出てきたものと見比べるが、総事業費に対して補助金は幾らか割り返すと何%で出る。祭り等楽しみのイベントは補助率 50%以下にするのが目標でいいのではないか。華美にする気ならいくらでもできる。市祇園祭りは 57.6%補助。40%くらいのところもあり、少しは遠慮しながら出してきたというのも垣間見える。ただ、どんどんお金がもらえてとりあえず出す感じになるから、その辺はきちっとしたものを出さないと。大きい祭りをここで最ものように話しているが、なかなか精査できない。本来的には大きい祭りは行政の担当課で話し合っ、補助金をもらうほうがよっぽどいい。補助金とするとこのくらいの祭りはこの中で調整してという頭を示せる制度ができるとよりやりやすいと思う。弁当は 600 円もらえて人数が幾らでと出していると永遠に出せてしまう。

委員長:次年度の課題になりますかね、基準の見直しのときにまた検討したい。

委員:弁当代とは別にコミュニティ経費として弁当代が出ると言うことでよいのか

事務局:コミュニティ経費はお水とお菓子だけでお弁当は出ない。

委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.127ハッピークラブ愛好会活動(宿赤さくら「ハッピークラブ」)

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.128由良町諏訪夏まつり(由良町諏訪区)

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.129第 39 回新野町納涼祭(新野町)

10 万円以下のため、事務局採択案件

No.130第 44 回由良町体宮区納涼祭(由良町体宮区青年部)

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

No.131 2026 おおたまつり(北会場)(おおた夏まつり実行委員会)

特に質疑はなく委員長より採決が諮られ、【採択】と決定した。

協議結果:4次募集【採択 8件】No.124～131

【不採択 1件】No.132 ※詳細は別紙のとおり

(2) その他

委員:区長会も地域総務が窓口。単独行政区のお祭りが対象になったことに関して区長会に周知を行ったか。

事務局:昨年度基準を変更したときに 14 地区の区長会を回って基準が変わったことと、単独行政区の夏祭りが対象になったことを伝えた。

委員:事業期間を見ると、7 月 1 日からのも多い。何日前に審査しているのか。少なくとも 3 ヶ月前には申請が出てこなければ、審査も事業もできないと思う。出せばお金がもらえるという考えが目に見えてわかる。まだ内容は決まってないというが、それは決めなければならない。補助金をもらいたいなら、綿密な計画を立てる必要がある。事務局から、採択になったが次回からはそうするように、少なくとも 3 ヶ月前には出すように、取り決めしたほうがいいのでは。補助金採択されなかったらどうなるのか心配になる。

委員:前回の委員会で高齢者の居場所づくりの件の経緯を説明していた。それが文書化してあるのか、なければ文書化してもらいたい。それを見ればこういう経緯があったとわかる。委員も変わるのだ。

事務局:現地視察先を検討している。いろいろな種類の事業を回りたい。昨年度は旧新

田の方は行けていなかったなので、そちらを中心に回れたら。要望があれば会議の後に。現状、強戸のまつりと金山のボランティアガイドには声をかけていて、ボランティアガイドには許可もらっている。強戸のまつりの方は検討するとのこと、OKになった場合 10 月 3 日は確定なので、予定を確認していただければ。

4. 閉会